

# 農業振興公社だより

## 新年のご挨拶



理事長 大友 喜助

あけましておめでとうございます。

会員の皆様にはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

公社の事業運営に対しましては日頃より格別のご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

会員の皆様のご努力によりまして、公社が設立しましてから早十三年が経過しようとしています。

この間、目標にしてきた「農業者、農業関係団体、行政の連携により新しい地域農業の展開と自立した農業経営体の育成」に向かって事業展開をまいりました。とりわけ、平成十一年度に策定した「角田農業戦略プラン」や平成十七年度の「角田農業戦略プラン実践編」に基づき、農地利用集積の促進や

あぶくま農学校の運営、東京都目黒区との交流等々さまざまな事業に取り組んできたところでございます。

しかしながら、ご承知のとおり

地域農業においては担い手不足や耕作放棄地増加の問題、農産物価格の低迷、放射線や風評被害など

身近な課題が山積しています。容易なことではありませんが、こうした課題の解決に向け公社の事業

を通じて一つ一つ取り組み、農業の振興に努めて参りたいと存じます。

また、最近では六次産業化ということがクローズアップされてお

ります。一次産業の農業だけでなく加工（二次）や流通（三次）産

業まで包含した形で事業展開を図るということですが、前述の課題

解決に向けてもこのような事業の

取り組みが必要と考えております。

生産者、関係者が連携しながら着

実に進めていけるよう努力いたし

たいと存じますので、会員の皆様

の一層のご支援をいただきたくお

願いを申し上げます。

なお、昨年十一月に法人制度改

### 発行

（社）角田市農業振興公社  
〒981-1505 宮城県角田市角田字大坊四一  
電話 (0114) 63-1318  
FAX (0114) 61-1511  
URL <http://www.kakunou.or.jp/>  
E-mail [kakuda@kakunou.or.jp](mailto:kakuda@kakunou.or.jp)

革に伴い公社の臨時総会を開催させていただきます。「公益法人」移行をめざし年内中に申請手続きを済ませ、現在は県の公益認定等委員会の審査待ちの状況にあります。一月中には結果が出るものと思いますが、「公益法人」移行の暁には新たな気持ちで出発して参りたいと存じます。

最後になりましたが、皆様のご健勝と益々のご活躍をご祈念申し上げ、新年にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

「公益法人」に向けて臨時総会が開催されました



▲理事長あいさつ

十一月二日、（社）角田市農業振興公社の臨時総会（第十五回総会）が角田市オークプラザで開催されました。

総会には委任状出席を含む百十四人（本人出席二十人）が出席し、公益法人制度改革に伴い新たに公益社団法人の設立に向けた定款変更等三つの議案が提案され、全議案とも満場一致で了承、決定されました。

開会にあたって大友理事長は「公益社団法人に向けた準備のための総会であり慎重に審議をお願いしたい」と挨拶。



▲議長の渡辺氏と総会の様子

議事では東根地区の渡辺俊博さんが議長になり審議が行われました。公社では、このあと関係書類を整備し、県の公益認定等委員会に申請書を提出し審査を受けることとなります。

戦略会議  
開催される

十二月十七日(月)に角田市農業戦略会議が公社会議室で開催されました。この戦略会議は、当公社の運営に関する事、地域農業全般についての検討、立案、調整を行うことを目的として設置されていますが、様々な事情で五年近く開催されていませんでした。

今回は、当公社が「公益法人」移行に向けて準備を進めていることに伴い必要となった戦略会議の位置付けや規程などの整理を含め、戦略会議の今後のあり方や運営について協議するために開催されました。

委員からは、農業者と関係機関との情報共有の場が必要であること、約五年のブランクを「作り直す」ための期間だったという意味で前向きに捉え、現状に合わせた形で運営すること、そして継続的に会議を開催すること、などの意見が話し合いの中で出されました。



アグリパソコン研究会  
研修会を開く

角田市アグリパソコン研究会(面川義明会長)の平成二十四年度の研修会が十二月十九日、美よし家で開かれ十七人の会員が出席しました。



▲メモを取りながら熱心に話を聞く会員

研修会には大河原地方振興事務所農業振興部部长(兼大河原農業改良普及センター所長)の鶴飼氏を講師に招き、「普及事業における技術指導と経営指導方針について」と題し、普及センターの仕事や指導・相談活動の内容について説明を受けました。



▲講師の鶴飼部長

質疑応答では、農業法人の設立の際のアドバイスはどの程度行ってくれるのか、設立後もかわってもらえるのかなど質問があり、設立する人たちのビジョンや思いが大切で、センターはこうしなさいということではなく、そのビジョンを構築するための経営面や設立に向けての事務的なアドバイスをさせていたいただいているなどと回答がありました。また、鶴飼部長からは、会員が記帳していることはとても大切なこと、税務面はもちろんだが我が家の農業の経営管理に是非役立てていただきたい、とアドバイスをいただきました。

角田のお酒で  
利き酒競技会を開催

十月二十七日(土)に当公社が事務局をしている『角田市地酒用地産米消費拡大推進協議会(おらほの美酒を育てる会 岸浪俊一会長)』が、角田市の角田ブランド推進課とJAみやぎ仙南シンケンファクトリーと共催で、『かくだ利き酒三酒競技会』をシンケンファクトリーを会場に開催しました。

この利き酒競技会は、昨年度までは地元のみで、おらほの美酒を育てる会が開催していま

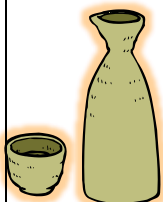
たが、今回は、角田の梅酒とシンケンファクトリーの地ビールをさらに広くPRするために合同の三酒の競技という形で行いました。



▲高得点を目指して“利き酒”に真剣です。表彰式では参加者全員満面の笑み

当日は八十名を超える参加者がありました。福島県伊達市や宮城県仙台市からも二十名以上の参加があり、参加者同士の交流も行われました。

利き酒競技会の結果は、三酒とも百点満点が続き、特に地ビール部門では、上位三位までを百点満点者が占めるなど非常にレベルが高い競技会となりました。角田市以外から参加された方全員に特別賞として、シンケンファクトリーの古代米で作った地ビールが一本ずつ手渡されました。





「目黒区消費生活展」に参加しました

十一月二十三日、二十四日に「目黒出前塾」を開催しました。第四十一回目黒区消費生活展に総勢十二名で参加し、野菜や梅干など角田の農産加工品の販売と、収穫の感謝の意を込め、「おこわ」と「新米」の試食も行いました。

◆◆◆イベントレポート◆◆◆  
イベント初日の二十三日はあいにくの雨模様。急遽、目黒区消費生活センター庁舎内での販売になりました。慌しく準備。そして午前一〇時の販売と同時に青木目黒区長が角田ブースを訪れ、励ましと労いの言葉を掛けていただきました。天候が悪いため、客足が鈍かったのですが、梅干は初日に完売するという「快挙」を成し遂げました。



▲販売の様子

二日目。雨が上がり、野外での販売。ただ肌寒く、客足はイマイチ。しかし、百姓先生たちの奮闘

もあり、お昼過ぎには野菜をほぼ売り切りました。  
なお、今回は実行委員会で福引をやっていました。その景品のひとつが「角田のつや姫」。担当者によると、なかなか好評だったようです。

仙台クリスロードで“角田の米”をPR

仙台市のクリスロード商店街の食材王国みやぎ地産地消市場で十月十九日から二十五日まで、角田の特産品などをPR、販売するイベントが開催されました。



▲商品のPRをする塾生

この市場は、宮城県物産振興協会と仙台放送が運営しているもので、一週間単位で県内市町村が出展しているもの。

角田市の出店は初めてで、角田市ブランド推進課、観光物産協会、角田市商工会、JAなどが中心になって参加しました。  
当公社では“米”を担当し、実

践塾の塾生が生産したひとめぼれやつや姫などあぶくま農学校ブランドの新米を販売しました。  
売り上げは目標に及びませんでしたが、実践塾の塾生と公社職員が新米試食コーナーを設けて来場者に振る舞い、「大変おいしい」と評判は上々でした。

あぶくま農学校農業体験学習 ～稲刈り編～

市内の西根小学校・北郷小学校・枝野小学校で「あぶくま農学校」を開校し、五月に田植えを行ったことは以前にお伝えしました。そして九月、稲穂が頭を垂れてきました。いよいよ稲刈りです。

農業体験学習では稲を刈るときはもちろん鎌で刈ります。そこで、百姓先生たちが事前指導を行い、刈り取るタイミングも随時指導を行い、怪我をしないように細心の注意を払って指導します。児童たちの手で刈っているときの真剣な表情、刈り終わった後の笑顔に充実感を感じました。



▲北郷小の稲刈りの様子

児童たちは田植えから収穫まで、稲の育ち具合や様子を観察してきました。そして自分たちで植えた稲の成長を自らの手で感じながら、農業体験学習は無事に終わりました。

農業体験学習は食農教育の一環なので、農業を体験するだけでなく、食卓に上がるまでに掛かる手間を知ることも目的のひとつです。米作りには八十八の手間があるといいますが、昨今は機械化が進み、それほど労力は掛からなくなりました。しかし、収穫が終わるまでの心配は変わりません。児童のみならずも農家の方々と同じように心配したと思います。これもひとつの手間でしょう。



▲西根小の稲刈りの様子

また、田植え、稲刈りでは多くの人たちの「手間」があつて成り立つことを知ったと思います。食への関心を持ち、そして多くの方々を支えられていることへの「感謝の心」を忘れないことが第二の目的です。それが体験学習後の「手を合わせて、いただきます」の言葉に見事に表現されています。

最後に、この三校では、目黒区の小学校と交流があり、春の田植え、秋の稲刈りを中心に農業体験学習を、地域のみなさんやPTA、JA青年部等関係者のみなさんとともに支援してまいりました。昨年、今年と、残念ながら、目黒区から参加できませんでした。目黒区の子どもたちが角田の田んぼで生の農業を体験する日がやってくることを心より願っています。



▲枝野小の稲刈りの様子

**パソナと共催で農業者雇用支援講習を実施しています**

十一月から一月までパソナ（厚生労働省から委託を受けた研修実施会社）と共催で農業者雇用支援講習を計五回実施しています。農業所得のアップのため、六次産業化、マーケティング、経営管理などを習得することを目標に、専門家による講義を行っております。すでに二回目までの講習は終わっておりますが、残り三回は当日

の参加もできますので、興味のある方はご参加ください。

第一回目（十一月六日）は、あぶくま農学校農業経営実践塾塾長で宮城大学副学長の大泉一貫教授の「六次産業化の潮流と起業」と題した基調講演でした。

大泉先生は、他の先進国と比べて日本の農業経営には市場開拓などの発想がない等の「弱み」があり、付加価値を生み出すビジネスモデルを農家自身が作り出すこと、販売と技術開発ができる製造業と組むことが必要である、と助言しました。



▲大泉先生による講演風景

第二回目（十二月十四日）は、

新潟大学農学部の新野誠喜准教授の「マーケティング」の講義。

新野先生は、農業者が生産から最終消費までのフードシステムの一員であることを認識していないこと、自分の商品の「売り場」をイメージできないことが問題であると指摘。直売所での実習では、消費者の視点に立って評価をし、改善策について議論しました。



▲清野先生の講演とあぐりっとでの実習

三回目以降のスケジュール等は以下の通りになっております。皆さまのご参加をお待ちしております。

※一月八日（火）十三時～十七時  
「法人化へのポイントと

労務について」

講師 税理士 三井信一氏、  
社会保険労務士 豊嶋正孝氏  
法人化のメリットや見落としがちな手続き等について学び

※一月十六日（水）十三時～十七時

「農業経営管理と経営分析」

講師 税理士 三井信一氏  
経営を価格という視点から見直し、  
キャッシュフロー（現金管理）について学ぶ

※一月二十五日（金）九時～十七時

「実地見学」

道の駅 上品の郷（石巻市）  
JA仙台たなばたけ高砂店（仙台市）  
直売所の陳列などの販売、経営コンサルティングなどを学ぶ



**特別会員の  
発送状況**



十月には、第二弾となるAコースの「朝ごはんセット」（新米ひとめぼれ五キログラム、味噌、梅干し、納豆）を、九十三名に、Bコースの「新米ひとめぼれ二十キログラム・味噌セット」を十五名にそれぞれ発送しました。

また、十二月には「麦とろセット」（ひとめぼれ五キログラム、押し麦、長芋）を二十九名にそれぞれ送付しました。

今回、新米よりの放射性物質の検出が心配されましたが角田市内全地区で「不検出」となり、特別会員の申込みがあった方からも「放射性物質の不検出により安心してました」等のご感想を頂きました。

なお、この程、東京目黒区の株式会社大丸様より大口の申込みがあり、対応しております。

**角田市農業経営者会議  
セミナー開催のお知らせ**

一月二十八日（月）と二月七日（木）の両日十八時三十分からオークプラザ二階（角田駅二階）を会場にセミナーを開催いたします。講師は、庄司和弘経営コンサルタント、事務所代表庄司和弘氏。

自分の経営を対象に問題発見から解決まで実習します。皆さまのご参加をお待ちしております。